

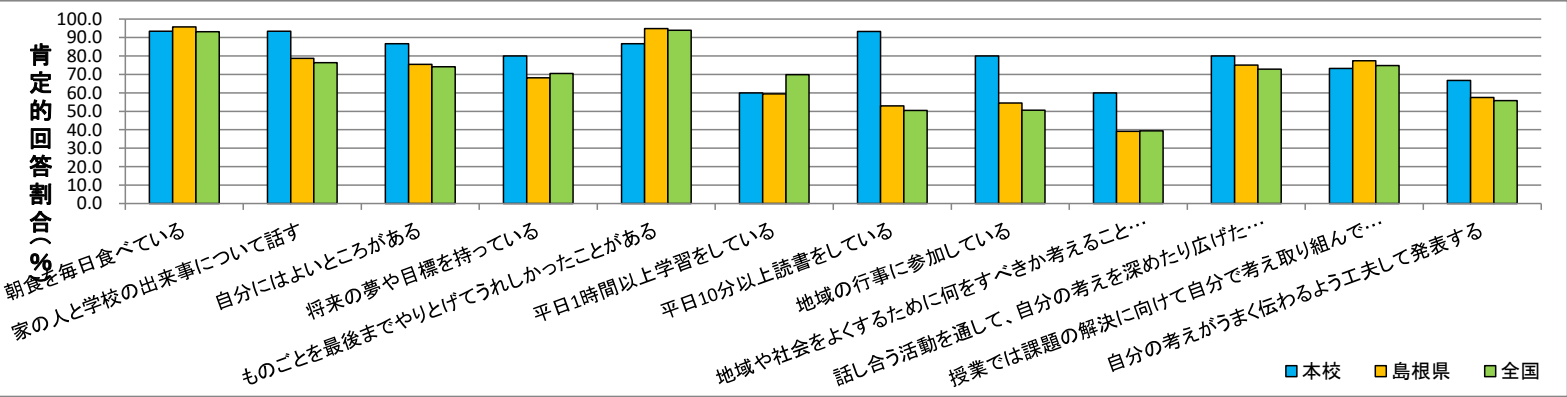
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○条件をふまえて、自分の考えを書く力が定着している。 ○グラフから情報を読み取ることができる。 ○手紙の書き方を理解している。 ●文章から情報を読み取る力が弱い。 ●発言の内容の関係を読み取る力が弱い。	・文章から情報を読み取る学習課題を各単元の初めに設定し、文章をじっくり読む姿勢を身につけさせる。 ・説明文の学習の際に、要約学習を設定する。その際に、語彙に注目させ、日常生活の中で使用できる語彙を増やせるようにする。 ・話し合い活動では、相手の意見をふまえて自分の意見を述べることを意識させる。全体での意見の共有の時に、積極的に質問をする姿勢が身につけているので、相手の意見のどこに注目したのかを述べさせるなど、発言を関連付けることを意識させる工夫をする。
数学	○16問中12問が全国正答率を超えていた。 ○数学に対する興味関心が高い生徒が多い。 ○数学に対して深く考えようとする生徒が多い。 ●1と6(1)から、こだわりが強く一つの考えに執着してしまう傾向がみられる。	これまでにも、長い記述問題に対して、記述を「読み合う指導」を行い、わからないことに向き合ったり、メタ認知をあげたりしてきた。さらに、「表現を洗練させるための指導」により、誤答に向き合い、生徒自ら記述をよりよくさせる関わりをしてきた。今後は、問題解決の結果から、数学的に発展・統合的に考えさせたり、日常や社会の事象をより深めたりする数学的活動に取り組んでいく。併せて、深い学びや視野を広くさせるために、他者意識が持てるような指導法を開発し、実施していく。
英語	○「読むこと」の問題の正解率が、全国平均より高いものが多かった。授業の中で「読むこと」を重視し、丁寧に指導している成果と考えられる。 ●「書く」力を問う問題に課題が見える。 「読んだ内容から自分の考えをもって、それを英文で書く」 「全体の流れを考えてふさわしい文を書く」 「文そのものは平易であるが、与えられた情報から文を組み立てて書く」 ●基礎、基本の力を「活用できる力」に課題がみられる。	・テストで取り組むような様々な「課題解決」を授業の中に取り入れていく。 ・教科書以外の様々な読み物を与えて、自力で問題を解く経験を増やす。 ・道案内や買い物という特別な状況での会話だけでなく、時事問題や日常の生活の中で自分が考えることや感じていることをALTIに伝え、会話をするなど、英語を活用して課題解決する場を増やし、その意欲を評価する。

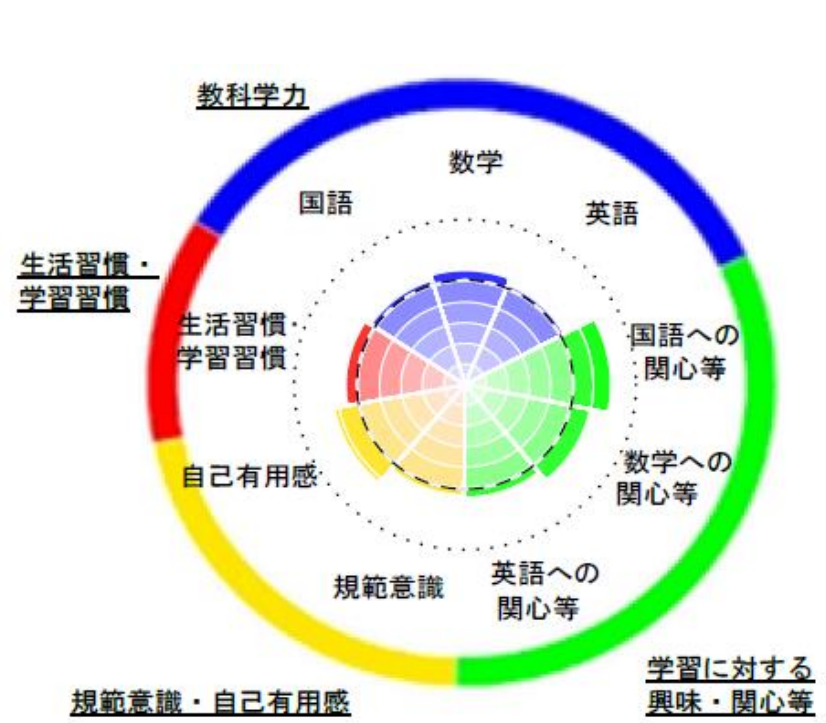
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○食生活、起床時間等の生活の基本習慣は定着している生徒が多い。教員から認められていると感じている生徒が県や全国の平均より多く、自己肯定感も高い。また、遵法精神が高く、いじめに対して全ての生徒がいけないことだと考えている。学級での生活や学習に対して肯定的な意見も多いため、学校に行くのを楽しんでいる生徒は9割を超えている。 地域の行事への参加について肯定的な生徒が8割以上、地域貢献について考えている生徒も5割以上おり、地域と密着した学校活動の成果といえる。 国語や数学の勉強を肯定的に捉えている生徒はともに8割近いが、これは両教科の授業がわかりやすいと捉えている生徒がともに9割近いことと大いに関係があると考えられ、両教科の授業における担当教員の日々の工夫の成果といえる。 ●家庭学習の時間が3年生としてはやや短い。また、家庭学習といっても、学校の課題を消化するような学習が多く、自ら計画的に取り組むような学習にまでなっていない。この家庭学習の実態は、総合的な学習や学級活動で、自分で課題を見つけ出すような活動に十分取り組めていないことと関係があるように思われる。 また、自分の住んでいる地域について外国の方等に発信したり、外国のことを知っていくことにやや消極的な面がある。学校の外に向かって発信する活動や、地域の枠を超えて交流する活動が少ないことが影響しているかも知れない。 コンピューターなどのICTを活用した授業の経験がほとんどないため、それらを授業の中でもっと活用したいと感じている生徒が半分以上いる。	・家庭学習を質、量ともに充実させていく必要性を感じている。基本的なワーク学習だけでなく、テスト等の結果をふまえて自分の課題点を自己分析して、主体的に課題を克服していく家庭学習を定着させたい。具体例としては、現在数学で取り組まれているレポート形式の課題をさらに多くの教科に広げていくとよいのではないかと考える。 地域とのつながりは深い分、えてして内弁慶になりがちなところがある。学習成果の発表の機会を地域はもちろん、より大きく広げていく必要性を感じている。そのためにも、発表やコミュニケーションのスキルを鍛え、自信をもって交流、発表のできる生徒に育ていきたい。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・プロジェクトメンターを継続して実施し、個々の学習状況に合わせて学力向上の対策に取り組む。 ・テスト計画を立てる時間を確保し、見直しをもって計画的に学習できる力を身につけさせる。 ・毎日の必修課題等を活用し、家庭学習習慣を身につけさせる。 ・互いに関わりあいながら学習を深める課題を工夫する。

【参考】

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	75	73	73	72.8
数学	64	60	57	59.8
英語	57	54	53	56.0

(%)

受検者数 15 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。